

第5章 クライアント - 職業マッチング

クライアントー職業マッチングの定義

クライアントの技能、興味、能力、その他の特性を適切な職業に関係づけていくことをクライアント - 職業マッチングと呼ぶ。職業マッチングは、職業紹介の過程で重要な点であり、クライアントの職業評価と職業分析が交差し、相互に関連するときである。マッチングは、明確な芸術的ともいえる技術だが、謎めいたプロセスといったものではない。4章で、職業分析は、そのガイドラインと様式があれば、ジョブ・コーチが行えることを説明した。この章では、ジョブ・コーチが効果的にクライアントを職業にマッチングさせるための手続きや様式が示される。

そのクライアントが地域社会で仕事をするために必要な、最低限の社会的活動、そして自立、可動性その他についての技能を持っているかどうかを見定めることは、ジョブ・コーチの職務である。与えられた職業を遂行するのに必要な技能を、すべて持っていなくてもよいということを知っておくことは重要である。ジョブ・コーチは地域に根ざした職場において訓練する責任を持ち、その訓練期間中に職業に関連するさまざまな技能を発揮できるようにクライアントを指導していくのである。クライアントが、仕事の中で細かい所を学びながら、しかも仕事を続けてゆけるかどうかについて、コーチが判断を下さなければならない。これらの重要な決定は、クライアントの強み、ニーズ、能力に関するしっかりした調査結果によるべきである。

ジョブ・コーチは、理性的に就職先を判断できるような情報を十分に収集しないうちは、クライアントを就職させることに大きなプレッシャーを感じるかもしれない。次にあげる傾向におされて貧弱な調査しかできず、後で自分自身、クライアント、雇用主が後悔するような決定をしてしまうことを避けるべきである。

プレッシャーには、次のようなものがある。

- 住居人がデイ・プログラムを受けていることや、そのグループ単位で住む住居あるいは、監督のいるアパートに入る前に一般就労していたことを要求する住居プログラム
- 一般就労を望む障害者の擁護グループ
- 以前、作業所か職業活動センターで受け入れられたか、もしくは全くサービスを受けていなかった障害者たちの援助付き雇用への紹介の増加
- 障害者の脱施設化という全国的な趨勢によるクライアントの増加

- 一般就労に関する障害者の労働能力の認識と権利意識の高揚

ジョブ・コーチはこれらのプレッシャーに負けて、性急に、十分に吟味せずにクライアントを職につけてはならない。性急な就職は、離職に終わり、クライアントに苦痛を与え、雇用主に不信感を与える。それゆえに、ジョブ・コーチは、クライアント - 職業マッチングの決定を行う前に、クライアントの職業に関するデータを集め、記録し、分析することが重要である。

クライアントに関する情報源

クライアント - 職業マッチングを始めるに当たって、ジョブ・コーチはこの過程で分析されるクライアントに関する情報を収集しなければならない。クライアントに関する多くの情報は次のような方法で収集される。

- 正式な評価（例：教育的、職業的、心理学的、社会 - 感情的、医学的 / 精神医学的）の解釈
- クライアント、家族、同居人、（もし学校を卒業したばかりなら）学校の教師、前の雇用主との面接
- さまざまな状況でのクライアントの観察（仲間と一緒にの時、ベテランと一緒にの時、活動センターにおいて、職場の集団そして / もしくは一般就労において、余暇活動において）

収集されたこれらの情報は、ジョブ・コーチに使いやすいように、有効な方法で記録されなければならない。この本では、決定を有効にするために必要なクライアントの情報を記録するための手段として、クライアント分析表（第 5 表-1~5 表-4、第 6 表-1~6 表-4）に掲載されている。クライアントと職業の特性を対比するために、職業分析表の中にはクライアント分析表と同じ項目が含まれている。クライアント分析と職業分析とを終了してから、クライアントと職場の特性の関係を推し測るために、クライアント - 職業マッチング表が使用される。この相関が高ければ、クライアントはこの職業において成功する可能性が高いということを示す。低ければ、クライアントはその仕事で成功しにくい。

評価の解釈

援助付き雇用のプログラムを利用するクライアントは、ごく最近に評価の総合テスト（身体的、心理学的、職業的）を受けているのが理想的である。そして、行動観察も含まれたクライアント

の仕事 / 訓練歴の記録も残されていたほうがよい。そしてこれらのレポートは、そのクライアントのジョブ・コーチが使えるように準備されていることが必要である。一般的に、クライアントに関する書類は、しばしば断片的であり、古い情報であることが多い。クライアントの行動について、古い情報を信用するのは極めて危険である。時間とともにクライアントの行動は良くなっていたり、悪くなっていたりするからである。

この章の後半に掲載されるクライアント分析表の中の項目や要因の視点を持って、クライアントの記録を読むことは役にたつ。この事は、ジョブ・コーチは次にあげるような、仕事に関連する特性を見るために記録を調べなければならない。

- 仕事への動機 - 仕事をしたい、もしくは生産的でありたいというクライアントの希望
- 監督されることへの反応 - 監督者の指示に対するクライアントの受容性
- 強化の必要性 - クライアントの要求水準の範囲内での賞賛や、報酬
- 衛生、身だしなみ - クライアントの身体、衣服の清潔さ
- 普通でない行動 - 一般的には典型的ではない行動や活動
- 精神運動的な能力 - 精神面運動面の両方の遂行能力

しばしばあることだが、ジョブ・コーチは記録からはそのクライアントの職業能力をぼんやりとしかイメージできないかもしれない。就職の決定は、いくつかの記録、情報源、データにもとづいて行われるべきであり、ひとつの情報源に頼ってはいけない。ジョブ・コーチはIQや生産率等の数字に過度に影響されてはならない。なぜならば、これらの要因と労働市場での成功との相関は未だに研究の結果が出ていないからである (Moon 他 1986)。

面接の方法

クライアントやその関係者に面接する前に、ジョブ・コーチはクライアントの労働能力に関するデータを集め、見直さなければならない。この過程をふんで、ジョブ・コーチはクライアントの職業に関する能力と障害との認識を深めるだろう。あらかじめジョブ・コーチがクライアントの会話能力・抽象的に考え抽象的な概念を取り扱う能力・過去の出来事を思い出すこと等に関する情報を持っていると、面接において大変に助かる。

1. クライアントとの面接

クライアントとの面接は、適切に行なわれれば、クライアントを個人的に知るのに重要な方法

である。熟達した質問を通じて、ジョブ・コーチはクライアントの会話の能力や、職業上の強さや弱さ、仕事への欲求、生活技能についての洞察を得ることができる。面接の方法は認知、会話、感情に障害を持つ人のニーズに合っていないなければならない。この事は、精神遅滞者の場合に明らかである。しかしながら、神経学的な機能不全や、感情障害を持っている人たちの面接は難しい。なぜなら質問を誤解したり、もしくは適切ではない誤った答えをしてしまう傾向があるからである。このようにして彼らは、効果的に会話することができなくなり、質問に十分に答えられなくなるほど感情的にガードしてしまうのである。

クライアントが質問に正確に、そして完全に答えられるようになるかどうか、は面接者の責任である。次にあげた提案は、認知・聴覚・会話に問題のあるクライアントに面接をするときに役にたつものである。

- 単純で具体的な語彙を使うこと。
- 質問は短く明快に。
- クライアントの返答に十分に時間をかけて待つこと。言葉を理解し、返答するのに時間のかかる人がいる。
- クライアントの答えに価値判断を避けること。
- クライアントが、一度では理解できなかったようならもう一度質問を繰り返すこと。
- 質問の意味をクライアントにジェスチャー・表情等の言葉によらない方法を使って伝え、クライアントにも答える際にこれらの方法も使うよう勧める。
- もし必要なら質問の意味を伝えるために絵を使うこと。
- 答えのためにも絵による選択肢を用意すること。
- 難聴の聴覚障害者のために補聴器等を利用すること。
- 全聾の聴覚障害者のために手話を使うこと。

時々ジョブ・コーチは、通常ならクライアントから得られる情報を収集するために、またクライアントが面接の中で何を言っているのかを確かめるために、家族やその他の面倒を見る人の援助を必要とすることがある。クライアントと家族等とが、それぞれクライアントの能力に関して異なった見解を示すときには、ジョブ・コーチは、他の信頼しうる情報源（教師、リハビリテーション・カウンセラー、職業評価員等）に当たらなければならない。

面接中に得られた情報もまた、同様のルールに従って記録されなければならない。さらに、ジョブ・コーチは、面接の目的が職業の訓練と就職に有用な情報を得ることである、ということを中心に置き、クライアントもしくは家族についての不必要な個人的な質問をすることを控えなけれ

ばならない。

2. 両親、後見人、世話人との面接

両親及び両親の役割をしている者は、障害者の生活において、特に利用者として援助付き雇用のプログラムのサービスを求めてきたときに重要な影響力を持つ。両親のサポートは、援助付き雇用におけるクライアントの成否を握っている。この理由により、ジョブ・コーチが両親もしくは後見人との関係を成立させ、よい関係を維持していくことは重要である。

まず最初に、職場を決定する前に、クライアントの両親もしくは後見人と、息子または娘の地域社会での就労ということに関する、希望と不安とを検討する面接場面を整えるべきである。次にあげるような重要な事柄が取り上げられ検討され、面接表に記録されるべきである。

- 両親が息子または娘に適当であると認める仕事または仕事群 -

これは両親が、息子・娘にとって「世界で一番いい仕事」と考えるもの、あるいは、彼等の子供が成人として達成して欲しいと望んでいた仕事と、定義できるかもしれない。これらのことについて話し合っている時に、非現実的あるいは、クライアントをきずつけてしまう可能性のある期待を持っていることが分かってくる事が多い。ジョブ・コーチはこれらの問題を誠実さと感受性を持って取り扱わなければならない。

- 両親が息子または娘に対して不適当とする仕事及び仕事群について -

両親たちに嫌だと思ふような職種、もしくは職場について質問することは最も重要である。家族の価値観は、道德感/宗教感から、ある“卑しい”仕事についての家族の感情まで、いろいろと示してくる。これらの事を注意深く、正確に聞き取ることは、ジョブ・コーチにとってもっとも重要なことである。

- 息子または娘の就労の結果として生じると両親が予見する問題 -

これらは、交通移動の問題から複雑な個人的・家族的な困難性まで含む。ジョブ・コーチはこれらの事を注意深く調査し、これらの潜在的な問題状況について認識を深めなければならない。

- 可能/不可能な仕事のスケジュール -

クライアントまたはその家族にとって、クライアントが週の内の特定の曜日に働くこと、もしくは日中・夜間の決められた時間に、働くことが非常に難しいことがよくある。解決しがたいスケジュールの問題を起こすような職業とのマッチングを決定する前に、この事を見いだしておくことが重要である。

- 交通機関 -

このことは、過渡的雇用においても援助付き雇用においても共通の問題である。その地域の多

くの領域において、公的な交通機関は限界があるかまったく存在しない。ほとんどのプログラムは、クライアントの移動方法に注意を向けられる程の十分な資金を持ってはいない。それ故、もしクライアントが自身で通勤できないときには、これらの義務は両親が家族に向けられるようになる。これが交通移動の問題を両親/後見人と話し合わなければいけない理由である。

- 就労後の障害者のための公的制度の消失の可能性 -

この時点においてジョブ・コーチは、クライアントの一般就労の結果、収入の補助の減額もしくは喪失する可能性について話さなければならない。もし両親/後見人がこれらの事についてもっと情報がほしいと希望したときは、その事について答えられる社会保障機関の地域事務所の人の名前と電話番号を教えなければいけない。

もし、ジョブ・コーチ、クライアント、クライアントの両親/後見人がはじめから信頼関係を築き上げるように行動していれば全てうまくいくだろう。プログラムの結果についての両親の恐れと期待について理解することで、ジョブ・コーチは、子供たちが就労可能であると両親が考えられるように、より効果的な手助けができる。

子供たちを援助付き雇用プログラムに、参加させることへの両親の躊躇を見落とししたり、無視したりすることは、大きな損失につながることになる。もしこの事に初めて気づいた時に、注意しなければ、両親がクライアントの就労を妨害するような事にもつながってくる。子供たちの一般就労について両親の関心に余り注意を向けないと次のような事が結果として出てくる。

- ジョブ・コーチは、注意深く配慮して選択した職場にクライアントが入った後に、その仕事を止める様に強制せざるを得なくなる。
- 両親が、クライアントが、特別な職業に受け入れられることを拒否する。
- 両親はその子供たちが職場に入る前、または就職直後にそれを止めさせる。
- 両親が知ってか知らずか、クライアントの職業上の成功を妨害する。

そして、両親もしくはその他の面倒を見ている人は、クライアントの好き嫌い・行動上の癖・日常生活の技能等に関する優れた情報源になり得る。面接の間に、ジョブ・コーチは両親から得られる、クライアントの仕事や、職場定着、訓練を容易にするような情報を記録しなければならない。

3. 教師、職業評価員、その他の専門家との面接

もし記録や報告書が不十分であったり役に立たない場合、クライアントを最近指導したり評価したり訓練した専門家と面接することが、特に重要である。これらの専門家は次のような側面の

情報を提供してくれるだろう。例えば、クライアントの読み書き等のレベル、労働習慣、指示に従える能力、生活技能、欲求不満への耐性などである。

注意書き

これらの専門家は学校とか評価センターとか専門の事務所とかいう条件のよい“人工的な”環境でクライアントと働いた人達である。クライアントが、自分の弱点をカバーできないような異なった環境では、かなり違ったように反応することは有り得る事である。

<例>あるクライアントは重度の言語・学習上の障害を持っている。学校では、会話せず、生活技能を欠き、教室での討論に加わらず、口頭もしくは書かれた指示に従えず、勉強する場面では容易に欲求不満に陥る。ジョブ・コーチとの面接の間、教師はこれらの情報について述べ、このクライアントが同じ年齢の同級生に比べて読む能力、計算、国語について遅れているということ報告した。

このクライアントが、学校を離れる数カ月前に、職業評価を行った職業評価員は、言語に関する学習障害に加え、続けて仕事を行うことが非常に難しいこと、手先の器用さに弱点があることを見つけた。

もし、ジョブ・コーチがこれらの要因を、クライアントの援助付き雇用の可否を決定する要素と考えていたなら、勿論駄目という結論になり、現在の彼即ち、注意深い職場マッチングの後に、熟練したジョブ・コーチによる訓練を受けて、フルタイムの充実した一般就労をしているこのクライアントはなかったであろう。

この例は、教師もしくは職業評価員の観察の価値や重要性を減じるために引用したものではない。それよりも、援助付き雇用に推薦されたクライアントは、いろいろな機能の領域で重度な障害を持っていることが多い、ということを示したいのである。しかしながら、これらの問題を克服できないとか、就労に当たって永続する障害であると決めつけてはならない。

4. 以前の雇用主、監督者、職業実習職員との面接

以前に職業経験のあるクライアントが、援助付き雇用に送られてくることも有り得る。公立学校の特殊教育カリキュラムに、職業実習が組み込まれることもよくあることとなった。以前の職業経験は、クライアントの、職場の主要な環境における遂行能力についても一つの重要な情報源となる。以前の監督者や職業実習の職員は、クライアントの職務の遂行、職業上の社会的関わり、会話の能力と指示に従う能力、再強化の必要性の程度等に関する情報を提供することができる。

組織化された環境でのクライアントの観察

援助付き雇用を適用するようなクライアントが、組織化されたプログラム（学校、職業活動センター、デイ・プログラム）に登録されているならば、その環境におけるクライアントを観察するために学校やセンターを訪問することは有効である。ジョブ・コーチが、他のプログラムの職員と親しいと将来の職場環境で要求されるような、仕事の遂行の具合を観察できるようにしてくれるかもしれない。このようにして仕事に関連する要素（すなわち、行動、生活・労働技能、強さ、耐性、会話の能力、再強化の必要性等）について観察し、より深く理解することができる。これらの要素の定義と例とは第4章にリストアップされている。

クライアント分析の例

クライアント分析表は、クライアントを仕事に適合させるためのデータを、記録する手軽な道具である。このデータは面接、記録の復習、上記で検討された観察に基づいて収集されるものである。

スタッフミーティングの後、スーザンは、中等度の精神遅滞の学生のための公立学校のプログラムにつき最近まで所属していた、青年男子のフレッドジョーンズのジョブ・コーチに指名された。フレッドは、職業実習職員によれば、かつて学校の職業実習において、パートタイムの清掃作業員として一般就労し比較的うまくやっていたという。フレッドにとって残念なことに、その会社の所有者が変わり、新しい所有者が費用削減のために全てのパートタイムの職をなくしたため、彼は職を失ってしまった。スーザンは、フレッドが成功をおさめる可能性があるような仕事に、マッチさせることを任命されたのである。彼女はまた、成功するのに必要な訓練とフォローアップもしなければならない。

フレッド自身と彼の持つニーズをもっとよく理解するために、スーザンは彼の記録を復習し、彼、彼の母親、学校の職業実習職員、彼の以前の雇用主に面接した。彼女はまた、彼が地域で一般就労できるまでに一過性に働いている職業活動センターでの働きぶりを観察した。彼女はこのようなして得た情報を、後でフレッドを適切な職業にマッチさせるときに使えるように、クライアント分析表（第6表-1～6表-4）に記入した。

スーザンは次のような情報をクライアント分析表に記入していくことによってクライアントの分析を開始した。

- クライアントの名前（フレッドジョーンズ）とクライアント分析の日付

- フレッドの自宅の住所、都市・州・郵便番号を含む
- フレッドの自宅の電話番号と日中の連絡先の電話番号（この場合、職業活動センターの電話番号）
- フレッドの生年月日、年齢、社会保障番号
- フレッドの両親／後見人の名前、自宅の電話番号、職場の電話番号
- 両親／後見人の電話番号と日中の連絡先の電話番号

スーザンは、フレッドの後見人は、彼の実際の両親であることを示す様式の空欄をチェックした。クライアント分析表の次の部分には、フレッドが以前に受けていた種々の福利厚生やサービスのリストがある。スーザンはフレッドとその母親の話から、フレッドが SSI と、州の保健サービスプログラムのメディケイド（医療）を受けていることがわかった。彼女はそのことを示す空欄をチェックした。

クライアントとその母親との面接と話し合いを通じて、スーザンは彼等が次の仕事には病気休暇や、有給休暇、集団治療が受けられることを望んでいることを知った。彼女はこのことを示す表の空欄をチェックした。彼女はそれから、フレッドの現在の状態を職業リハビリテーション分類にしたがって 18 と記録した。このコードは、彼が施設の職業活動プログラムに参加したことから訓練の適応があると判断したことを示している。スーザンは彼の障害の種類と程度（中等度精神遅滞）、最近の心理学的検査からの情報を記録した。この部分を完成するためにスーザンは、心理学的、医学的、教育的、雇用記録等を含んだ施設のファイル記録の内容を示すような空欄をチェックした。

フレッドは一般就労の経験もあるので、スーザンは“以前に一般就労の経験あり”という空欄をチェックすることから始め、職歴の部分の全てを完成させた。

彼女は次のような情報をコード化した。

- 直近の職種名
- その会社名
- 会社の郵便番号と所在地
- 会社の電話番号
- 監督者の名前、肩書、電話番号
- フレッドの雇用された日付、1 週間の給料と労働時間

スーザンはフレッドが、サブ・オール清掃会社で働いていたときには何の福利厚生も受けて

いなかったことをチェックした。それからスーザンはサーブ・オール清掃会社での普段の仕事を“事務所の清掃：ゴミ捨て、モップふき、ほこり払い”と書いた。この仕事についての表現は全てを含んでなくてもいいのだが、仕事の性質と範囲を示すように注意を払わなければならない。この部分の終わりに当たってスーザンは、フレッドがこの清掃業をやめた理由を書いた。フレッドの母親は、フレッドの失業の理由を会社の機構改革のせいであると言った。スーザンはこのことを雇用主に確認した。

クライアント分析表の、クライアントのプロフィールの部分は、職業分析表の職業に関連した部分や、その中のチェックリストの項目と非常によく似た構成となっている。人間の行動の複雑性から、クライアントの要素の項目の下にさらに小項目が追加されている。これらの追加されたクライアントに関する小項目は、第4章の職業分析の例の中の小項目と同様な様式で位置づけられている。

1. 個々人が要求されること

これらには、職場でうまくやるための個人的、社会的、行動的な特性が含まれる。

外見 - 48 ページの定義と討論を参照。

- 外見を記入する様式 -

フレッドに面接し、職業活動センターでの様子を観察した上で、スーザンは彼がさっぱりとして清潔ではあるが、身なりがきちんとしていないと考えた。そこで彼女は彼の意見を表現するために、“さっぱり / 清潔、しかしマッチしない”という欄をチェックした。

行動 - 48 ページの定義と討論を参照。

- 行動について記入する様式 -

スーザンは、フレッドには異常な行動がほとんどないが、気が動転した時に口の中で独り言をもぐもぐ言うということをコメント欄に記載した。

攻撃的な話し方 / 行動 -

この項目は、脅かし、物を投げる、たたく、噛みつく、蹴る等の明白な身体を使った攻撃行動や抗弁的な言葉を含んでいる。

この項目ではこれらの問題の程度はこれらの行動が起こる頻度で計られる。

- 攻撃的な話し方 / 行動について記入する様式 -

スーザンは、フレッドが攻撃的な行動を起こしたことを、聴取することはなかった。それ故、彼女は“全くなかった”という項目をチェックし、いくぶん熱情的だがとても穏やかな性格であると記載した。

ストレス / 批判への対処 -

この項目は、職業分析表には載っていない。

この項目は、クライアントの生活上の様々なプレッシャーや、ストレスをコントロールする能力についてのものである。同様にここでは、クライアントが矯正された時の反応についても含んでいる。これらはクライアントを職業につかせる場合に、非常に重要である。なぜならば、一般的に職場の同僚や監督者は、ストレスや批判に対しての特別な反応に対して、どう対処すればいいかという訓練を受けていないからである。

- ストレス / 批判への対処について記入する様式 -

スーザンは、フレッドの職業実習のスタッフや、以前の職場の監督者からの情報に基づいて“批判を受け入れる / 行動を変える”という欄をチェックした。彼女はまた、フレッドにとって何を期待されているのか、を理解することが難しいことがあるが、一旦具体的に説明されると彼はすぐに受け入れる、ということも記載した。

会話 - 48 ページの定義と討議を参照。

- 会話について記入する様式 -

スーザンはフレッドが、時々聴き手に理解しづらい発音をするという問題を持っていることに気がついた。それ故彼女は、“発音不明瞭”という欄をチェックした。コメント欄には、フレッドは聞かれれば言ったことをもう1回繰り返す、ということに記載した。

スーザンはまたフレッドが、短い文章で話をするということも記載した。

職務への注意 / 耐性

本質的には、この様式は職業分析表の注意の項目と同じである。

- 職務への注意 / 耐性について記入する様式 -

フレッドの前の雇用主は、彼がなすべき仕事を理解していれば、一人で自立して働くことができると報告した。これ故彼女は、“頻回な促し / そう監督しなくてもよい”という欄をチェック

した。

変化の受け入れ - これに関する定義と討議については職業分析(第11表)の「職務/手順の変化」を参照。

- 変化の受け入れについて記入する様式 -

フレッドのファイルには、教師や職業評価員による“変化に慣れにくい”、といういくつかの報告があった。これは、そんなに大変なことではないようにも思えたが、スーザンはフレッドが変化に対応することが、困難であることを記載すること、とした。コメント欄には、変化に慣れるのに促しと時間が必要であることを記述した。

社会的交わり - これに関する定義と討議は、4章の「社会的かかわり」を参照。

- 社会的な交わりについて記入する様式 -

スーザンはフレッドがきわめて大人しく、よく知った人でない限り自分から接触を求めることは、めったにしない人柄であることにすぐに気がついた。彼女は“社会的な交わりを自分から始めることはめったにない”とチェックし、これを選択した理由について書き示した。

2. 時間/移動の要因

クライアント分析表は、職業分析表と全て同じ項目を含み、その他に職務分析には必要ないが、クライアントを援助付き雇用で処遇していく際に必要になる2つの項目を含んでいる。それは、移動と道路を横断する技能である。クライアントの、地域社会で働く能力を評価するときに、これらの移動能力や安全性に関連したことをどの程度身につけているか、を計ることは重要である。

都合のよいスケジュール -

これは、クライアントもしくは、その家族がどのような日、もしくは時間に働きたいかということについてのものである。この時点で、就労前にクライアントが夜間あるいは週末に、もしくはフルタイムあるいはパートタイムで働きたいか、ということを決めておくことが重要である。この項目は情報を記録するようにデザインされている。

- 都合に合ったスケジュールについて記入する様式 -

フレッドとその母親と話し合った結果、スーザンは双方ともフルタイムの仕事を望んでいるこ

とを知った。そこでスーザンは“フルタイムの仕事を希望”をチェックした。スーザンはコメント欄に、家族はフレッドのことを考えて週末と夜間の仕事を望んでいない、ということも記載した。

移動方法 -

フレッドの職場へのもしくは職場からの移動についてのものである。公共交通機関から私鉄、非常に制限されたものから完全に自立しているという程度まで、様々な可能性をモデルとしてあげている。

- 移動方法について記入する様式 -

好運なことに、フレッドの家は都市バスの路線上で、最も近い停留所まで歩いて5分のところに住んでいた。彼の家族は、車の運転ができ、天候がすぐれないときには彼を職場まで車で連れていってもいいと言っていた。これらのことを確認して、スーザンは“バスの路線上に住んでいる”をチェックし、フレッドの家族が彼を車で連れていってくれるとすることを記載して、“家族が車を運転する”という欄をチェックした。

交通機関を使う技能 -

この技能は文字どおり、目的地に到着する能力である。クライアントが、どの程度バス等を使えるか、もしくは自分の能力に合わせて交通機関をどの様に組み合わせるか、がこの技能の程度を決める。

- 交通機関を使う技能について記入する様式 -

スーザンはフレッドが一人でバスに乗れるが、乗り換えができないということがわかった。それゆえ、彼女は“一人でバスに乗れる / 乗り換えはできない”という欄をチェックした。彼女はまた彼が、この技能を一番最近の職業で身につけたと記載した。

道路を横断する技能 -

道路の片側からもう一方へ安全にわたることが、この技能のもっとも簡単な定義である。信号のある2車線の横断から、信号がない4車線をわたるまでのレベルがある。クライアントが職場周辺の道路を安全にわたることができるかどうかを、一人で職場に行くことを許可する前に見定めることは、非常に重要なことである。

- 道路を横断する技能について記入する様式 -

フレッドの母は、彼が信号のある 2 車線の道路を安全に横断することができるということを保証した。彼はこれ以上の経験はなかった。

時刻を識別する技能 -

51 ページの定義と論議を参照。

- 時刻を識別する技能について記入する様式 -

スーザンは職業活動センターの人から、フレッドは“丸い時計”で 1 時間単位で時刻が読め、いつが昼食でいつが休憩時間か、ということを知っていることがわかった。彼女は“休憩 / 昼食の時間がわかる”“1 時間単位で時刻が読める”という欄をチェックした。デジタル時計なら分単位まで読めるかもしれない。彼女はこの事をコメント欄に記載した。

職場の空間に対するオリエンテーション -

- 職場の空間に対するオリエンテーションについて記入する様式 -

スーザンは面接を通じて、フレッドが広い場所でもほとんど問題なく、自分の通り道を確認できる、ということがわかった。清掃作業員をやっていたときには、彼は何の問題もなく 3 階分の床を掃除していた。彼女は、彼のビル全体に対するオリエンテーションの良さを、示すために“建物全体”という欄をチェックした。

可動性 -

52 ページの定義と討議を参照。

- 可動性 -

フレッドは働くために、歩いたり、立ったり座ったりすることに何等医学上の問題を持っていない。スーザンは職業活動センターでフレッドが働いたり歩いたりしているのを見て、彼ははっきりとした可動性の問題がない、と記載した。

3. 仕事への耐性

仕事への耐性とは働くことを維持し、仕事を遂行するために必要な身体的な力を持っていることを言う。この両方とも、障害者を一般就労させる時に、重要なことである。

耐久性 -

- 耐久性について記入する様式 -

フレッドは今までに1日に4時間以上働いたことがなかった。彼の母親の話から、彼は仕事が終わってからもかなり活動的で、めったなことでは疲れない、ということがわかった。スーザンは、“3 - 4 時間労働 / 休憩無し” という欄をチェックしたが、彼は仕事が終わってからも元気で、十分なスタミナを持っているように思われる、ということに記載した。

強度 物を持ち上げることと運ぶこと -

強度とは身体的な強さのことを言い、どれくらい重い物を持ち上げられ、運べるかによって、弱から強まで分けられる。

- 強度について記入する様式 -

職業活動センターでフレッドは、30 ポンドくらいの箱を持ち上げることができた。スーザンは・そのことで示される平均程度の欄をチェックした。

4. 遂行能力

この要因のセットは職業分析表にみられたものと全くおなじである。遂行能力には仕事を開始することおよび完成することに必要な行動が含まれる。

仕事の開始 - 54 ページの定義と討議を参照。

フレッドの以前の雇用主や職業活動センターのスタッフは、フレッドが時々何の促しもなしに次の仕事を始めてしまうことを報告した。

どうして仕事を始めてしまうかはわからないのだが、これは事実であるということで一致している。この情報をもとに、スーザンは、“時々次の仕事をしてしまう” という項目をチェックした。

独立して仕事の手順をととのえられる能力 -

これに関する定義と討議については 54 ページを参照。

独立して仕事の手順を整えられる能力について記入する様式 -

清掃作業員として、フレッドは集中訓練の後に最大4つの職務をつぎつぎとこなせた。スーザンは、“ - 続きに4から6の業務を遂行できる ” という項目をチェックした。

仕事の道具の判別 -

これに関する定義と討議については、55 ページを参照。

- 仕事の道具の判別について記入する様式 -

フレッドは職業活動センターにおいて、仕事の道具を見分けることができていた。それゆえスーザンはそのことを示す項目をチェックした。

独立して仕事をするペース -

- 独立して仕事をするペースについて記入する様式 -

以前の雇用主によると、フレッドは平均的でむらのないペースで仕事ができると報告した。そこでスーザンはそのことを示す項目をチェックした。

5. 基礎的な学力

これらは社会的な活動に必要な基本的な読み書き計算のことを言う。学術的なものは含まない。むしろ、文字社会で生活していく最低のものを指すのである。

読む能力 - これに関する定義と討論については 56 ページを参照。

- 読む能力について記入する様式 -

フレッドの特殊教育の教師は、フレッドが自分の名前、簡単な言葉、通常使われるサインやシンボルを、読み取ることができることを報告した。スーザンはこの能力を示す項目をチェックした。

計算能力 -

いろいろなレベルが考えられるのだが、ここで関係するのは、学校で習うような基本的で基礎的なものである（数の概念、計算）。計算に関係した必要性があった時に、対応できるような職場に就職をさせるためにもこのレベルを知ることは、重要なことである。

- 計算能力について記入する様式 -

スーザンはコメント欄に、フレッドは 100 まで数えられ、足し算、引き算もできると記入した。彼女は、“足し算 / 引き算 / すべての数” という項目をチェックした。

お金に関する能力 - これに関する定義と討議については、56 ページを参照。

- お金に関する能力について記入する様式 -

フレッドの母親によると、彼は硬貨と紙幣とが認識でき、その価値が分かり、お金を勘定することもできるが、両替ができないという。スーザンはこの技能を示す項目をチェックした。

書く能力 - これに関する定義と討議については 57 ページを参照。

- 書く能力について記入する様式 -

スーザンは、フレッドが自分の名前を書き、筆記体でサインをし、リストや簡単な記述をすることができるということを示す項目をチェックした。フレッドの教師は彼のスペルは表音的であるが、何を書き伝えようとしているのかはわかると記述した。

6. 他の関連した要因

クライアントへのはげましの必要性や、家族の支援体制、クライアントの経済上の必要性等のような個人的な要因がこの項目に含まれる。これらは仕事上の満足と成功とに、大きく影響するものであり、クライアント分析表にも含まれるものである。

「はげまし」の必要性 -

仕事におけるクライアントに対する賞賛、または前向きな意見の必要性、もしくは優れた行動や、達成に対する具体的な報酬の必要性がこの項目を構成する。これは、クライアントの側の職務分析の要因であり、「はげましの入手の可能性」として、前述。

- 「はげまし」の必要性について記入する様式 -

スーザンは、フレッドが仕事がうまく出来たことを、ほめる一日の終りの感想によく反応することを見て、“毎日のはげまし”という欄をチェックした。彼には給料以外の具体的な報酬は、必要なかった。

家族の支援体制 -

クライアントの労働に対する家族の反応は、クライアントの仕事の成否に大きく影響する。家族の態度は、労働を拒否するものから強く希望するまで様々である。これらの最初の気持ちが変わ

わってしまうことは、家族が、例えばクライアントの移動のために、自分たちのスケジュールを犠牲にしなければならなくなった後には十分にありえることである。ジョブ・コーチは家族の気持ちを十分に解釈し、観察したことを理解して、変化することも考慮しながら記録しなければならない。

- 家族の支援体制について記入する様式 -

フレッドの母親と面接している間に、スーザンは母親と家族全員がフレッドの一般就労を望んでいることが分かった。学校の関係者は、家族はフレッドを推薦し続けていたことを報告した。これらから、“非常に支援的な家族”という項目をチェックした。

クライアントの経済的援助の必要性 -

障害を持ったクライアントの経済上の必要性は非障害者と比べると全く異なっている。政府から補足的な収入と健康保険の給付を受けているクライアントもいるが、これは、ある決められた金額以上の収入があると、もらえなくなるものである。この範疇にいる多くの人達にとっては、この喪失は非常な脅威である。政府からの給付を失うことを恐れている人達は、この給付を受けられる範囲の収入を続けるように、パートタイムの仕事を希望する傾向がある。また、これらの給付には興味を示さずに、社会保険やその他の福利厚生があるフルタイムの就職を希望する人達もいる。ジョブ・コーチが、クライアントの仕事を探す前に、クライアントとその家族がこのことを同感しているかを十分に理解しておくことは非常に重要である。

- クライアントの経済上の必要性について記入する様式 -

フレッドと母親はスーザンに、もし最低賃金以上のフルタイムの仕事で、有給休暇、病気休暇のある仕事に就職できるなら、フレッドが受けているSSI（不足分補充金）を打ち切りたいと考えていることを伝えた。スーザンは“福利厚生のある仕事を要求”という欄をチェックし、フレッドが最低賃金以上の収入と、労働者の福利厚生を希望していること、をコメント欄に記載した。

7. 医療に関すること

障害者は、一般の人たちよりも、身体上の問題を持っていることが多い。援助付き雇用プログラムにおいて、クライアントの安全性を考えると、労働における医学的な問題を考慮することは重要である。同時に、身体上の問題によっては仕事をしばしば休まなければならないものもあり、失職につながる可能性もある。

けいれん発作 -

意識消失、意識の脱落、ひきつけ等が特徴のこの神経学的な問題は、通常薬物でコントロールできる。てんかん発作の多くは、けいれん発作という臨床症状を持つ。安全性を考えるために、ジョブ・コーチはクライアントが発作を、持っているかどうかを知らなければならない。もし持っているなら、ジョブ・コーチは、その発作がうまくコントロールされているかどうか、起こりやすくする誘因はないかどうかをはっきりさせなければならない。

- けいれん発作について記入する様式 -

フレッドの病歴からは、彼がけいれん発作を持っているという記録はない。母親に確かめてもそのようなことはないという。スーザンはこの項目の答えとして、“ない”と記録した。

他の医学上の問題 / 身体的問題 -

けいれん発作以外の医学的状況、身体的制限等を記載する。

- 他の医学上の問題 / 身体的問題について記入する様式 -

フレッドの病歴から、彼が木の花粉に対するアレルギーを持っていることがわかった。スーザンは、“あり”と記入し、上記のことをコメントした。

服薬 -

クライアントが定期的に服用している薬物はここにすべて列挙しなければならない。クライアントの職場における生産性や安全性に影響を及ぼすほどの、もうろうさや副作用を起こす薬物もある。同時に、ジョブ・コーチは仕事時間にクライアントが服薬できるように調整しなければならない。

- 治療について記入する様式 -

フレッドの病歴には、花粉アレルギーに悩んでいるときには、買い薬の抗ヒスタミン剤を服用するということが記載されていた。スーザンは、“あり”をチェックし、上記をコメントした。

職業に対する姿勢 クライアントと両親 / 後見人 -

クライアント分析表のこの部分のためにも、ジョブ・コーチはクライアントと両親/後見人と別々に面接しなければならない。別々に質問することによって、ジョブ・コーチはそれぞれがど

のように考えているかを知ることができる。質問は念押しがなくても分かるぐらいに簡単な言葉です。もし必要なら質問をはっきりさせるためにもう一度繰り返す。

例：

質問1「何があなたにとって一番いい職業ですか？」という質問は「あなたが一番やってみたい仕事は何ですか？」と言い換えられる。質問3の場合は、「働くのに一番いい場所はどこでしょう？」という聞き方は、あるクライアントにとってはあまりにはっきりしないものである。これはつぎのような言葉を使ってもっと具体的にすることができる。

「マクドナルドのような大きい場所で働きたいですか、それとも食堂車のような小さな場所がいいですか？」

「きれいでさっぱりした場所で働きたいですか、それとも多少散らかっていてもいいですか？」

「一人とか二人の職場がいいですか、それともたくさん人がいるほうがいいですか？」

「いろいろと話しかけてくれる人と働きたいですか、それとも、静かな人と働きたいですか？」

クライアントを分析していく上で、前述した面接の方法が有効である。これらの提案は、会話の障害があるクライアントへの質問も可能にし、面接の答えも有効に引き出せるようにする。質問や答えを意味する選択肢の図の入ったフラッシュ・カードは言葉を受け、表現することに障害を持っている人達には有効である。

会話に障害を持つクライアントと、よく一緒に仕事をするジョブ・コーチは、それぞれ工夫したフラッシュ・カードを持っている。

スーザンはフレッドと母親と別々に面接し、それぞれの質問の下にそれぞれの答を記入した。上記したように、有効な答えができるように、フレッドへの質問をより具体的に特別な言い方をしなければならなかった。

質問1

スーザンはフレッドに「何があなたにとって一番いい職業ですか？」と聞いた。

彼は清掃業が一番やりたい、と答えた。同様の質問を母親にしたところ、彼女は漠然に、彼がうまくやれる仕事なら何でもいいと答えた。明瞭・簡潔にするために彼女は基本的な情報のみを記入した。

質問2

もともとの質問は「職業に一番期待することは何ですか？」というものである。スーザンはこの質問をもっと特別に変更しなければならなかった。彼女は、「はい/いいえ」の答えを避けるようにして、この質問をいくつかの部分に分けた。質問は、フレッドが理解したとスーザンが納

得できるまで繰り返された。

例：

「仕事の内容についてどう思いますか？それはあなたにとって重要ですか、そんなに重要ではありませんか、全く重要ではありませんか？職場の地位や職業名はどうですか？それはあなたにとって重要ですか、そんなに重要ではありませんか、全く重要ではありませんか？」フレッドは、ものをきれいにし、お金を稼ぎ、家の近くで働くことは彼にとって重要であると述べた。母親に質問すると、余り義務のない仕事で労働者の福利厚生があり、週末および夕刻の仕事がなく、家に近いことがフレッドには重要であると答えた。スーザンはこれらの答えのポイントを記載した。

質問3

スーザンはこの質問を上記のように細かく分割してフレッドに質問した。彼は、大きな、きれいなビルで静かな人達と働きたいこと、そして仕事場では制服を着用したいことを伝えた。それに対して母親は、フレッドに小さな職場を望んでいた。そして彼の身体的感情的な安全性を考えていた。スーザンはこれらの答えを要約し、できるだけ明確に記載した。フレッドの答えは「大きなビル、制服、善良でかつ静かな人々、きれいな場所。」、母親の答えは「安全なビル、親切な人々、小さな職場。」である。

質問4

フレッドに何が一番上手かと聞いたところ、ものをきれいでさっぱりとさせることが好きだと答えた。母親はフレッドが台所の床や自家用車を掃除するのが上手であると答えた。

スーザンは掃除という言葉を取り上げフレッドの答えを「ものをきれいにさっぱりにする。」、母親の答えを様式に従って「台所の床と自家用車を洗うこと。」と記入した。

質問5

どんな仕事にベストを尽くしたいかという質問に、フレッドは静かにものをきれいにしていく仕事と答えた。母親は、彼は一人でやる仕事で回りのものが、きれいに見えるようにすることを好んでいるといった。スーザンはフレッドの回答を、“静かにものをきれいにする”と、母親の回答を“一人でやれる仕事で、回りのものがきれいに見えるようにする仕事”と記入した。

質問6

スーザンは他にどんな仕事が好きでうまくやれるか、と尋ねた。彼は皿洗いと洗車と答えた。母親は、彼は風呂場の掃除や家の皿洗いが好きで、これを楽しんでいるようだと言ったし、上手でもある。フレッドの答えは、“皿洗い/洗車”と、母親の答えは、“風呂場の掃除/家の皿洗いを好む”と記入した。

質問7

どんな仕事を覚えることが難しいか、と尋ねた時に、フレッドは読んだり話したりしなければ

ならない仕事、いろいろな部分に分かれている仕事と答えた。母親は、複雑なものを読んだりすることは、計算したりする仕事や事務的な仕事と同じように彼には難しすぎると言った。また、お金の計算も、フレッドには大変であるということも言った。スーザンはフレッドの答えを、“読んだり話したりすることが必要な仕事、いろいろな部分に分かれている仕事”と、母親の答えを、「読んだり話したりすることが必要な複雑な仕事、事務仕事、お釣を計算したりお金を取り扱う仕事」と記入した。

質問8

フレッドに嫌いな仕事を尋ねたところ、座ってやる仕事とフードサービス業、と答えた。母親はフレッドが、食料を取り扱うことや台所で働くことを非常に嫌っていると言った。スーザンはこれらのことを簡潔に記載した。

質問9

どんな訓練が必要かフレッドに尋ねたところ、もう少し読み、書きの練習が必要であると答えた。それに対して母親は、もう少し監督なしで働ける方法を学ばなければならないと答えた。スーザンは、クライアントの、“もう少し読むことの練習”と、両親/後見人“監督なしで働く訓練”と記載した。

質問10

この質問は、彼が仕事に支障を来すような健康上の問題を彼が持っているかどうか、クライアントと母親とに尋ねるものである。フレッドはないと答えた。母親は、アレルギーの時期に抗ヒスタミン剤を飲むと時々眠気を催すと答えた。両方とも記載された。

趣味と活動/将来の「強化」活動

クライアント分析表のうちのこの部分は、クライアント/両親、後見人との面接の間に記入されなければならない。クライアントの社会的（社交的）活動や、レジャーのことを聞く目的は次のようなことである。

- ジョブ・コーチがクライアントを、好き嫌いのある人間としてよりよく理解するようにする。
- ジョブ・コーチにクライアントが興味を持つ会話の題材を提供する。
- クライアントに具体的なはげましが必要になった時に、適切な報酬を計画する素材になる。

ここで言う活動には、野外活動、創作活動、特別な行事/行動が含まれる。次にレジャーやレクリエーションの楽しみが記入される。面接中、ジョブ・コーチがこのことを質問するまでに、クライアントが単純な「はい」、「いいえ」以外の答えが必要な質問に答えられるかどうか、と

ということ、「野外での活動が楽しいですか？」と聞くことが適切かどうかを考え、判断しなければならない。もし答えが「はい」ならば、ジョブ・コーチは「その野外での活動の名前を教えてください。」と尋ねられる。この場合、クライアントは口頭でそのような野外活動を列挙し、ジョブ・コーチは表に基づいてチェックしていき、もし追加のものや注意点があればコメント欄に記載することができる。

好きな野外活動を思い出し、表現することに支障をもたらすような認知・会話能力に障害を持つクライアントに対しては、ジョブ・コーチは考えられる野外活動について、「外を歩くのは好きですか？」「キャンプ旅行は好きですか？」「サイクリングは好きですか？」というように一つ一つ尋ねていかなければならない。このやり方は、表に掲げてある3つの活動について行なわなければならない。スーザンは、フレッドに質問する際にこの方法を使った。クライアントとのインタビューのこの部分は115ページを参照。

クライアントが、好み親しくしている人の名前を知っておくことは有用である。というのは、これらの人達は、クライアントに大きな影響力を持っているからである。第4項目はこの情報のためのものである。ジョブ・コーチは、クライアントが仕事で成功するための能力に影響を与えるような物事や環境についての理解を深めるために、クライアントと近い人と話をしなければならないかもしれない。フレッドの親友には、学校時代から時々一緒に映画に行ったティムや、プラモデルと一緒に作ったティムの父親、一緒に食事に行ったり映画に行ったりするガールフレンドのメアリーがいる。スーザンはこれらのことを表に書き入れた。

クライアントのお金に対する価値観を確認するため、ジョブ・コーチは第5項目でどのように特別なお金を使うかを聞く。スーザンはフレッドが彼の答えの選択(ビデオ・ゲーム、映画の券、ラジオ)を見て、レクリエーションに強い興味を持ち、与えられた金額に応じた使い方を知っていることがわかった。フレッドの選択したものを使って表の空欄を埋めた。

第6項目では、クライアントがどのような特権を望んでいるかを尋ねる。ここでクライアントの嗜好や成熟度、自立の程度を知ることができる。この項目のフレッドの答えは、ガールフレンドをデートに連れて行くために、タクシーを使って自分一人で移動できる能力があるということを示している。スーザンはこの欄に、“ガールフレンドをタクシーで食事や映画に連れて行くこと”と記載した。

第7項目はクライアントが誕生日に何を望んでいるかという希望の欄である。フレッドはディズニースターワールドへの旅行を希望した。スーザンはこのことが可能かどうか、という質問はしないで表に誕生日の希望を記載した。

第5表-1

クライアント分析表

クライアント _____ 年月日 _____
 住所 _____
 電話番号 _____ 日中の電話番号 _____
 生年月日 _____ 年齢 _____ 社会保険番号 _____
 両親/後見人 _____ 電話番号 _____ 会社の電話番号 _____
 住所 _____

クライアントとの属性 () 実の両親 () 義理の後見人/親戚
 (一つをチェック) () グループホーム/他のサービスの供給者
 () なし () その他 _____

福利厚生とサービス

政府からの経済的な援助・給付(現在受給しているものをチェック)
 () Supplemental Security Income (SSI) () Medicaid
 () Social Security Disability Income () その他
 クライアントが持っているもしくは必要とする福利厚生
 () なし () 病気休暇 () 医療給付金 () 労働割引
 () 無料/食事の割引 () 有給休暇 () 歯科給付金
 職業リハビリテーション部門(DVR)のサービス () 現在 () 今まで
 DVRの期日 _____ DVRのコード/記述 _____
 クライアントの障害 _____ () 重度 () 中度 () 軽度
 クライアントのファイルにおける評価の内容
 () 心理学的 () 医学的 () 職業的 () 教育的 () 雇用

職業歴

() ボランティア/訓練の経験 () 一般就労の経験なし
 () 以前に一般就労の経験あり () 現在一般就労

直近の職業名 _____ 会社名 _____
 会社の住所 _____ 電話番号 _____
 監督者の名前/地位 _____ 電話番号 _____
 雇用の期間(いつから) _____ (いつまで) _____ 給料 _____
 福利厚生: () なし () 病気休暇 () 医療給付金 () 労働割引 週20時間
 () 無料/割り引かれた食事 () 有給休暇 () 歯科給付金
 義務 _____
 離職した理由 _____
 それ以前の職 _____

第5表-2

クライアントのプロフィール

※印の項を除いて一つだけを選択すること（※は複数可）。クライアントの観察やクライアントの重要人物（両親／後見人，教師，ソーシャルワーカー，雇用主等）の面接や専門職の報告からの情報をもとに選択すること。個々の選択肢の数字はクライアント-職業マッチング表の点数をつける時に使われる。

1. 個人的特性

外 見

- 0 () だらしない／衛生的でない 2 () さっぱり／きれいだがマッチしない
 1 () だらしない／衛生的 3 () さっぱり／きれいでマッチしている
 コメント
-

行 動

- 0 () 普通でない行動が多い 1 () 普通でない行動がほとんどない
 2 () 普通でない行動がない
 コメント
-

攻撃的な話し方／行動

- () 時間毎 () 日毎 () 週毎 () 月毎 () ない
 コメント
-

ストレス／批判への対処

- () 抵抗／議論好き () 批判は受け入れる／行動は変えない
 () 黙ってしまう () 批判は受け入れる／行動も変える
 コメント
-

会 話

- 0 () 音声／ジェスチャーを使う 2 () 不明瞭な話し方
 1 () キーワード／合図を使う 3 () 明瞭な会話
 コメント
-

職務への注意／耐性

- 0 () 頻回な「促し」が必要 2 () 断続的な「促し」／そう監督しなくてもよい
 1 () 断続的な「促し」／高度な監督が必要 3 () 頻回ではない「促し」／そう監督しなくてもよい
 コメント
-

変化の受け入れ

- 0 () 決まりきっていることが必要
2 () 変化への順応はそう困難ではない
- 1 () 変化への順応が非常に困難
3 () たやすく変化に順応する
- コメント
-

社会的交わり

- 0 () 交流なし
2 () 社会的交わりを自分から始めることはめ
ったにない
- 1 () 礼儀上の返答のみ
3 () よく自分から社会的な交わりを始める
- コメント
-

2. 時間／移動の要因

都合のよい仕事のスケジュール

- 0 () 動かしうる日／時間
1 () 月－金のパートタイム
2 () 夜間／週末のパートタイム
3 () 月－金のフルタイム
4 () フルタイム／夜間／週末
- コメント
-

移動方法

- () なし () 特別な交通機関の利用 () バス路線上に住んでいる
() 家族が運ぶ () 自ら(バイク, 自動車, 徒歩)
- コメント
-

交通機関を使う技能

- () バス利用の訓練が必要 () 一人でバスに乗れる／乗り換えできる
() 一人でバスに乗れる／乗り換えはできない () 自分で交通機関を組み合わせることができる
- コメント
-

道路を横断する技能

- 0 () なし
1 () 2車線の信号のついている道路の横断ができる
2 () 2車線の信号のついていない道路の横断ができる
3 () 4車線の信号のついている道路の横断ができる
4 () 4車線の信号のついていない道路の横断ができる
- コメント
-

時刻を識別する技能

- 0 () 時間の概念や時計の働きについて知らない
2 () 1時間単位で識別できる
- 1 () 休息や昼休みが識別できる
3 () 時間／分単位で識別できる
- コメント
-

クライアントの経済上の必要性

経済的制をやめようと思っていない 福利厚生のある仕事を要求
 経済的な制度を受けていくためにパートタイムの仕事が必要 経済的なことには無関心

コメント

7. 医療に関すること

けいれん発作 なし あり／コントロールされている
 あり／コントロール不十分

もしある場合、その発作型を記載 _____

他の医学上の問題／身体的問題 なし あり
もしある場合、記載 _____

服薬 なし あり
もしある場合、記載 _____

第5表-3

仕事に対する姿勢：クライアントと両親／後見人

就労の受け入れや拒否，期待の程度を知るために別々の場面でこれらの質問をすること。

1. (あなた／クライアントの名前) にとっての完全な職とは何ですか？
 クライアント _____
 両親／後見人 _____
 2. 仕事に期待するもので一番重要なのは何ですか (例：職務，職名，給料，時間，場所)？
 クライアント _____
 両親／後見人 _____
 3. 働くのに一番いい環境はどういうものですか (例：物理的な規模，設備，外観，人の構成)？
 クライアント _____
 両親／後見人 _____
 4. 何が一番上手にできますか？
 クライアント _____
 何が (クライアントの名前) は一番上手にできますか？
 両親／後見人 _____
 5. どういう仕事が一番好きですか？
 クライアント _____
 どういう仕事が (クライアントの名前) は一番好きですか？
 両親／後見人 _____
 6. 他にはどのような仕事が一番好きで上手ですか？
 クライアント _____
 他にはどのような仕事が (クライアントは) 一番好きで上手ですか？
 両親／後見人 _____
 7. どんな仕事をやったり学んだりする上できつすぎますか？
 クライアント _____
 (クライアントは) どんな仕事をやったり学んだりする上できつすぎますか？
 両親／後見人 _____
 8. どんな仕事が嫌ですか？
 クライアント _____
 (クライアントは) どんな仕事をしませんがありませんか？
 両親／後見人 _____
 9. どんな訓練が必要だと思いますか？
 クライアント _____
 (クライアントには) どんな訓練が必要だと思いますか？
 両親／後見人 _____
 10. 仕事をするのが大変になるような身体／健康の問題がありますか？
 クライアント _____
 (クライアントには) 仕事をするのに支障をきたすような身体／健康の問題がありますか？
 両親／後見人 _____
- 追加のコメント _____

第5表-4

趣味と活動/将来の「強化」

クライアントに好きな活動や友人について聞くこと。この情報の関することに障害になるような会話上の問題があれば、両親か後見人もしくはクライアントに親しい人に聞くこと。

1. 野外活動

- () 散歩 () キャンプ () 自転車乗り () ハイキング () ボート
 () ピクニック/野外料理 () 釣り () 園芸

コメント _____

2. 創造的な活動

音楽

- () 歌う () リズム () 音楽を聴く () 楽器の演奏 () ダンス

コメント _____

演劇

- () 物語り () 寸劇 () ロールプレイ () 無言劇 () 創作劇

コメント _____

美術と工芸

- () 線画 () 絵画 () マクラメース () 陶芸 () モデル作り
 () 織物 () 針仕事 () 木工 () 紙工芸 () ろうそく
 () 彫刻 () 印刷 () コラージュ

コメント _____

3. 特別な行事/活動

- () 映画 () テレビ () コンサート () 演劇 () 展覧会
 () 市 () カーニバル () サーカス () 博物館 () 動物園
 () パレード () 観光 () 外食 () パーティー () デート
 () 休日の活動 () スポーツ観戦 () 買い物 () クラブ
 () 教会活動 () 友人訪問 () ボランティア活動 () 旅行

コメント _____

4. だれがあなたのもっとも親しい友人ですか？その人たちと何をするのが一番好きですか？

名前 _____ 関係 _____ 活動 _____
 名前 _____ 関係 _____ 活動 _____
 名前 _____ 関係 _____ 活動 _____

5. もしあなたが50ドル持っていたら、それで何を買いますか？

1ドルなら _____ 10ドルなら _____ 100ドルなら _____

6. どんな特権を持ちたいですか？ _____

7. 誕生日には何が欲しいですか？ _____

補足のコメント

第6表-1

クライアント分析表

クライアント フレッド・ジョーンズ 年月日 5-15-87
 住所 2003 スタール通り エリコット市 MD21043
 電話番号 342-9117 日中の電話番号 342-6541
 生年月日 4-9-65 年令 22-1 社会保険番号 214-06-4252
 両親/後見人 アンナ・ジョーンズ 電話番号 342-9117 会社の電話番号 342-5900
 住所 2003 スタール通り エリコット市 MD21043 ×216

クライアントとの属性 (×) 実の両親 () 義理の後見人/親戚
 (一つをチェック) () グループホーム/他のサービスの供給者
 () なし () その他 _____

福利厚生とサービス

政府からの経済的な援助・給付 (現在受給しているものをチェック)
 (×) Supplemental Security Income (SSI) (×) Medicaid
 () Social Security Disability Income () その他
 クライアントが持っているもしくは必要とする福利厚生
 () なし (×) 病気休暇 (×) 医療給付金 () 労働割引
 () 無料/食事の割引 (×) 有給休暇 () 歯科給付金
 職業リハビリテーション部門 (DVR) のサービス (×) 現在 () 今まで
 DVRの期日 4-1-87 DVRのコード/記述 18 (訓練プログラム)
 クライアントの障害 精神薄弱 () 重度 (×) 中度 () 軽度
 クライアントのファイルにおける評価の内容
 (×) 心理学的 (×) 医学的 (×) 職業的 (×) 教育的 (×) 雇用

職業歴

() ボランティア/訓練の経験 () 一般就労の経験なし
 (×) 以前に一般就労の経験あり () 現在一般就労

直近の職業名 清掃業 (パートタイム) 会社名 オールクリーニングサービス
 会社の住所 465 テーラー通り エリコット市 MD21043 電話番号 342-9600
 監督者の名前/地位 J・フィリップス, 日中のリーダー 電話番号 342-9600×197
 雇用の期間 (いつから) 1986.7.6 (いつまで) 1987.1.4 給料 時給3.5ドル
 福利厚生: (×) なし () 病気休暇 () 医療給付金 () 労働割引 週20時間
 () 無料/割り引かれた食事 () 有給休暇 () 歯科給付金
 義務 オフィスの清掃; ごみ捨て, モップがけ, 灰皿の処理
 離職した理由 会社が全てのパートタイマーを解雇した
 それ以前の職 なし

第6表-2

クライアントのプロフィール

*印の項を除いて一つだけを選択すること（※は複数可）。クライアントの観察やクライアントの重要人物（両親／後見人，教師，ソーシャルワーカー，雇用主等）の面接や専門職の報告からの情報をもとに選択すること。個々の選択肢の数字はクライアント-職業マッチング表の点数をつける時に使われる。

1. 個人的特性

外見

- 0 () だらしない／衛生的でない 2 (×) さっぱり／きれいだがマッチしない
 1 () だらしない／衛生的 3 () さっぱり／きれいでマッチしている
 コメント 着衣はきれい しかし粹でない

行動

- 0 () 普通でない行動が多い 1 (×) 普通でない行動がほとんどない
 2 () 普通でない行動がない
 コメント あわてた時に独りごとを言う

攻撃的な話し方／行動

- () 時間毎 () 日毎 () 週毎 () 月毎 (×) ない
 コメント いくぶん熱情的だがとても穏やか

ストレス／批判への対処

- () 抵抗／議論好き () 批判は受け入れる／行動は変えない
 () 黙ってしまう (×) 批判は受け入れる／行動も変える
 コメント 何をすればいいかがわかればすぐに受け入れる そんなに具体的な説明は不要

会話

- 0 () 音声／ジェスチャーを使う 2 (×) 不明瞭な話し方
 1 () キーワード／合図を使う 3 () 明瞭な会話
 コメント 発音に問題 聞き返されればもう一度繰り返す 短い文章で話す

職務への注意／耐性

- 0 () 頻回な「促し」が必要 2 () 断続的な「促し」／そう監督しなくてもよい
 1 () 断続的な「促し」／高度な 3 (×) 頻回ではない「促し」／そう監督しなくてもよい
 監督が必要
 コメント 仕事を理解すれば独りで働く

変化の受け入れ

- 0 () 決まりきっていることが必要 2 (×) 変化への順応はそう困難ではない
 1 () 変化への順応が非常に困難 3 () たやすく変化に順応する
 コメント 変化に慣れるために「促し」が必要

3. 仕事への耐性

耐久性

0 () 2時間以下／休憩なし 2 (×) 3－4時間／休憩なし

1 () 2－3時間／休憩なし 3 () 4時間以上／休憩なし

コメント 日に4時間以上働いた経験がない 仕事の後も元気である めったに疲れな
い

強度；物を持ちあげることと運ぶこと

0 () 虚弱（4－5ポンド） 2 (×) 平均（30－40ポンド）

1 () 弱い（10－20ポンド） 3 () 強い（50ポンド以上）

コメント _____

4. 遂行能力

仕事の開始

0 () 次の職務を拒否 2 (×) 時々次の職務をする

1 () 仕事の指示を待つ 3 () 常に次の職務をする

コメント 次の職務の開始に時々「促し」がいる

一人で職務を持続していく能力

0 () 職務の持続が不可能 2 (×) 一続きに4－6の職務を遂
行できる

1 () 一続きに2－3の職務を遂 3 () 一続きに7以上のの職務を
行できる 遂行できる

コメント 最近の仕事では連続して4つの職務をしていた

仕事の道具の判別

0 () 仕事の道具を判別できない 2 (×) 判別できる

1 () 手掛かりがあれば判別でき
る

コメント _____

独立して仕事をするペース

0 () 遅い 2 () 平均以上／時として速い

1 (×) 平均的／不変 3 () 常に速い

コメント _____

5. 基礎的な学力

読む能力

0 () 読めない 1 (×) 簡単な単語・サインのみ 2 () 簡単な文脈のみ

3 () 新聞／雑誌

コメント _____

計算能力（最高の能力をチェック）

0 () できない 1 () 単純な計算のみ 2 (×) 足し算／引き算／全ての数

3 () 掛け算／割り算／全ての数 4 () 少数／分数／全ての数

コメント やり直すことなく2つの数の足し算/引き算ができる 100まで数えられる

お金に関する能力 (最高の能力をチェック)

0 () できない 1 () 硬貨/紙幣の判別のみ 2 () 硬貨/紙幣の価値を知っている 3 (×) 勘定できる 4 () 1ドルを両替できる 5 () 10ドルを両替できる

コメント _____

書く能力 (最高の能力をチェック)

0 () 書けない 1 () 名前が書ける 2 () 筆記体で名前が書ける 3 (×) リスト/簡単な覚書/伝言が書ける 4 () 手紙/作文が書ける

コメント 表音的な書き方 その意味はわかりやすい

6. 他の関連した要因

「強化」の必要性

0 () 職務の間頻回な「強化」が 2 () 一週間に1回の「強化」が必要
必要

1 (×) 日常的な「強化」が必要 3 () 支払いのみ

コメント 正のフィードバック, 賛辞を好む

家族の支援体制

0 () 労働に対して否定的 2 () 留保しながらも支援的

1 () 日常的な「強化」 3 (×) 非常に支援的

コメント _____

クライアントの経済上の必要性

() 経済的制度をやめようと思っていない (×) 福利厚生のある仕事を要求
() 経済的な制度を受けていくためにパートタイムの仕事が必要 () 経済的なことには無関心

コメント _____

7. 医療に関すること

けいれん発作 (×) なし () あり/コントロールされている () あり/コントロール不十分

もしある場合, その発作型を記載 _____

他の医療状況/身体的問題 () なし (×) あり

もしある場合, 記載 花粉アレルギー

服薬 () なし (×) あり

もしある場合, 記載 アレルギーの時期に抗ヒスタミン剤

第6表-3

仕事に対する姿勢：クライアントと両親／後見人

就労の受け入れや拒否、期待の程度を知るために別々の場面でこれらの質問をすること。

1. (あなた／クライアントの名前) にとっての完全な職とは何ですか？
 クライアント 清掃業
 両親／後見人 彼がうまくやれると感じられる仕事なら何でもよい
2. 仕事に期待するもので一番重要なのは何ですか (例：職務，職名，給料，時間，場所)？
 クライアント 清掃業で前よりもお金がよく，家に近いこと
 両親／後見人 責任がそんなにない 福利厚生 週末／夜間の仕事がない
3. 働くのに一番いい環境はどういうものですか (例：物理的な規模，設備，外観，人の構成)？
 クライアント 大きなビル 制服 善良で静かな人々 きれいな場所
 両親／後見人 安全なビル 親切な人々 小さな職場
4. 何が一番上手にできますか？
 クライアント ものをきれいにさっぱりとする
 何が (クライアントの名前) は一番上手にできますか？
 両親／後見人 台所の床と自家用車を洗うこと
5. どういう仕事が一番好きですか？
 クライアント 静かな仕事 ものをきれいにする仕事
 どういう仕事 (クライアントの名前) が一番好きですか？
 両親／後見人 独りでやれる仕事で回りの物がきれいに見えるようにする仕事
6. 他にはどのような仕事が一番好きで上手ですか？
 クライアント 皿洗い 洗車
 他にはどのような仕事 (クライアントは) 一番好きで上手ですか？
 両親／後見人 風呂場の掃除や家の皿洗いを好む
7. どんな仕事がやったり学んだりする上できつすぎますか？
 クライアント 読んだり話したりすることが必要な仕事
 (クライアントは) どんな仕事がやったり学んだりする上できつすぎますか？
 両親／後見人 たくさんのパートがある仕事
8. どんな仕事が嫌ですか？
 クライアント 座ってやる仕事 フードサービス業
 (クライアントは) どんな仕事をしたがりませんか？
 両親／後見人 フードサービス業
9. どん、訓練が必要とと思いますか？
 クライアント もう少し上手に読むことの練習
 (クライアントには) どんな訓練が必要とと思いますか？
 両親／後見人 監督なしで働く訓練
10. 仕事をするのが大変になるような身体／健康の問題がありますか？
 クライアント ない
 (クライアントには) 仕事をするのに支障をきたすような身体／健康の問題がありますか？
 両親／後見人 アレルギーの時期に抗ヒスタミン剤を飲むと時々眠気を催す

追加のコメント

第6表-4

趣味と活動/将来の「強化」

クライアントに好きな活動や友人について聞くこと。この情報の関することに障害になるような会話上の問題があれば、両親か後見人もしくはクライアントに親しい人に聞くこと。

1. 野外活動

(×) 散歩 () キャンプ (×) 自転車乗り (×) ハイキング () ボート
() そり (×) ピクニック/野外料理 (×) 釣り () 園芸

コメント _____

2. 創造的な活動

音楽

() 歌う () リズム (×) 音楽を聴く () 楽器の演奏 (×) ダンス

コメント _____

演劇

() 物語り () 寸劇 () ロールプレイ () 人形劇 () 創作劇

コメント これらにはない

美術と工芸

(×) 線画 () 絵画 () マクラメース () 陶芸 (×) モデル作り
() 織物 () 針仕事 () 木工 () 紙工芸 () ろうそく
() 彫刻 () 印刷 () コラージュ

コメント 父親とのモデル作り

3. 特別な行事/活動

(×) 映画 (×) テレビ () コンサート () 演劇 () 展覧会
(×) 祭 (×) カーニバル (×) サーカス () 博物館 (×) 動物園
() パレード () 観光 (×) 外食 () パーティー () デート
() 休日の活動 (×) スポーツ観戦 (×) 買い物 () クラブ
() 教会活動 () 友人訪問 () ボランティア活動 () 旅行

コメント 一人か二人の人といることを好む 大勢のグループ活動は好まない

4. だれがあなたのもっとも親しい友人ですか？その人たちと何をするのが一番好きですか？

名前	<u>ティム</u>	関係	<u>級友</u>	活動	<u>映画</u>
名前	<u>父親</u>	関係	_____	活動	<u>モデル作り</u>
名前	<u>メアリー</u>	関係	<u>ガールフレンド</u>	活動	<u>外食 映画</u>

5. もしあなたが50ドル持っていたら、それで何を買いますか？ ビデオゲーム

1ドルなら キャンディ 10ドルなら 映画の券 100ドルなら ラジオ

6. どんな特権を持ちたいですか？ ガールフレンドと夕食や映画に行くのにタクシーを使う

7. 誕生日には何が欲しいですか？ ディズニーワールドへの旅

補足のコメント _____

クライアント - 職業マッチング表

この目的は、職業分析表の結果と、1人から4人のクライアントのクライアント分析表の結果とを比較する様式(第7表-1~表7-2、第8表-1~表8-2))について述べることである。言い換えると、最大4人までのクライアントのそれぞれの資格を、1枚のクライアント - 職業マッチング表を使用することにより、比較・検討できるということである。もし4人以上のクライアントが対象になる時には、クライアント - 職業マッチング表のB欄を切り張りし、クライアントの点数欄のクライアント4、5、6といったように追加していかなければならない。以下にその手順を述べていく。

総計 / すべての要因を算出するためのA欄の操作 -

- 職業分析表の点数をクライアント - 職業マッチング表に書き写す。
- それぞれの群(個人の資質、時間/移動の要因、労働への耐性等)での合計を出し、それぞれの小計欄に記入する。
- このようにそれぞれの小計を出した後、総計を計算しマッチング表の7の分析の欄に記入する。

重要点の総計 / すべての要因を算出するためのA欄の操作 -

- A欄において、職業分析表でその仕事上重要であるとチェックされた要因の点数を で囲む。
- それぞれの群での で囲まれた重要点の合計を出し、それぞれの小計欄に記入する。その書き入れる箇所は上記の小計欄のすぐ下にある。
- 分析において、それぞれの小計を記入した後に、すべてを足して重要点の総計を出し、総計欄に記入する。

B欄の操作(クライアントのスコア)

総計 / すべての要因

- クライアント分析表の点数をB欄にあるそれぞれのクライアントのための箇所に記入する。クライアント#1というのは、この表の一番初めのページに乗っているクライアントの名前という項目の横に書かれているクライアントのことである。クライアント#2はクライアントの名前の下に書かれているクライアントのことであり、このようにして4人のクライアントまで取り扱える。それ以上のクライアントについては、最初のページに、名前を書くことを忘れないようにして、クライアントの欄をいろいろと切り張りすればよい。
- それぞれの群におけるクライアントの点数の小計を出しそれぞれの箇所に記入する。
- (総計 / すべての要因)分析において、それぞれの小計を記入し、それらを合計し総計を出し、

総計欄に記入する。

重要点の総計 / すべての要因

- 重要点すべてを で囲む。例：A欄において、注意ということが重要点に上げられていたなら、注意に対するB欄の点数を同様に で囲む。
- それぞれの群での で囲まれた重要点の合計を出し、それぞれの小計欄に記入する。
- 7の分析において、それぞれの小計を記入した後に、すべてを足して重要点の総計を出し、総計欄（重要点総計 / すべての要因）に記入する。

マッチングの結果

これらのデータから、別々のクライアントの順序がつけられる。最初のものは「総計によるマッチング」といい、総計 / すべての要因の分析で得られたそれぞれのクライアントの順番による。もっとも高い点数のクライアントを # 1 の欄に記入し、二番目は # 2 に、というように続けていく。

もう一つの順位は、「重要点の総計」に基づくマッチングである。ここで重要点の総計・全ての要因の最も高い点数のクライアントを # 1 と記入し、二番目は # 2 と続けていく。職業上に要請される重要点は決して軽んじられてはならない。2人以上のクライアントの点数が非常に接近している場合は、ジョブ・コーチはそれぞれのクライアントがその職のためにどの程度の訓練が必要かということを考えなければならない。もしあるクライアントが読むことに問題があり、小計でも点数が低く、その職業が読むことに対して高い必要性を持っている時には、ジョブ・コーチはクライアントはこの仕事に非常に大きな障害を持っていると考えなければならない。十分な読む能力を持ち、他の職業上の能力の問題には訓練を進んで受けるもう一方のクライアントの方が、他の要因を比較すると、この仕事には適切かもしれない。

二通りの順位の付け方があることで、仕事内容と候補に上がっているクライアントを二通りの方法で検討できる。何人かのクライアントが一つの仕事に「正確に」マッチすることはあり得ることだが、最善のマッチとなるのは一人である。職業分析表とクライアント分析表に記載されているそれぞれの要因の点数や小計を点数化されていない項目も含めて精密に検証することによって、釣合のとれた「意味のある」順序づけをすることができる。言い替えれば、クライアントの紹介、あるいは、クライアントの紹介を差し控える際に2つの順位のどちらか（または他のいかなる単独の情報源）だけを参考にして判断を下してはならない。この過程の中で究極的には次の様な質問に答えなければならない。この仕事はクライアントに適切であるか？このクライアントはこの仕事に適切な従業員となり得るか？総計の点数からみると良いのだが、ジョブ・コーチが就職させない方がよいと臨床的な判断をすることが時々ある。事実に基づいたこのような判断も

軽んじられるべきではない。

クライアント - 職業マッチングの例

障害者のための援助付き雇用サービスを行なう機関のジョブ・コーチであるスーザンは、窓拭きの仕事を分析し（第4章参照）この職の候補に2人のクライアントを考えた。彼女は2人のクライアント、家族、彼らと働いたことのある専門職等と面接した。彼女はまた関連する報告書やクライアントを、評価した専門職の報告に目を通した。クライアント分析表は、両方のクライアントとも完成していた。次にスーザンがやらなければならないことは、どちらのクライアントが窓拭きの仕事にあっているか、ということを見定めることである。両方とも余りうまくマッチしないということも、よくあることである。

スーザンは、クライアント - 職業マッチング表の始めから情報を、書き入れていくことからマッチングを開始した。彼女は次のように記入していった。

- 会社名（メンテナンス・システム）
- 職名（窓ふき）
- 記録者（スーザン・トンプソン）、日付（87年5月29日）
- クライアントの名前（クライアント#1 = フレッド・ジョーンズ、クライアント2 = メアリー・ホワイト）

クライアント - 職業マッチング表の大部分は、職業分析表とクライアント分析表の情報を基にしている。ここでは短縮するためにフレッド・ジョーンズのクライアント分析表のみあげておく。スーザンはフレッド・ジョーンズのクライアント分析表の情報をクライアント - 職業マッチング表に記入したように、メアリー・ホワイトの情報も記入している。

A欄の操作 -

- スーザンは職業分析表（第4表 - 2）の仕事に関連のある点数を第8表 - 1のA欄に書き移した。これらの点数はそれぞれの項目の選択肢の番号と一致している。

例：

1. 個々人が要求されること

外見

C NC

- 0 身だしなみは重要ではない
- 1 清潔のみ要求される
- 2 さっぱりしていること / きれいであることが必要
- 3 身だしなみが非常に重要

窓ふきという職業の場合には、外見については清潔のみ要求されている。そこでスーザンは「清潔のみ要求される」をチェックした。この選択肢の点数は(1)であったので、クライアント - 職業マッチング表最初にあるA欄の外見の箇所に(1)と記入した。同様に彼女は行動の箇所に(1)を、会話の箇所にも(1)を記入した。これらの3項目は、職業分析表ではNC(特に重要ではない)となっていた。

次の注意という項目では、点数が(2)で重要であることを意味するCがチェックされている。

注意

C NC

- 0 頻回な注意が必要
- 1 間欠的な注意 / 高度の監視が必要
- 2 間欠的な注意が必要 / 監督はそう必要ではない
- 3 時々注意が必要 / 監督はそう必要ではない

これから、スーザンは、職業 - クライアントマッチング表に記入し、これが職業を成功させるために重要であることを示すために で囲んだ。仕事の変化も同様に重要で点数は2であった。この項目は2点と記入され で囲まれた。最後の要素は、個々人が必要とされるものである。相互交流は(1) NCがチェックされていた。これは(1)と記入された。

次の図はこの群の点数と、それらがどのように表に記入されているか、を示しているものである。重要な項目が で囲まれていることに留意すること。

- スーザンは小計を出すために、個々人に必要とされるものの点数を合計し、それを適切な箇所に記載した。それから重要である項目の で囲まれたもの二つを足し、合計し重要点の小計欄に記載した。

仕事に関連する要素	職業分析表の 仕事要素のスコア	クライアント分析表のプロフィール のスコア			
	(A欄)	(B欄)			
1. 個々人に要求 されるもの		クライアント#1	クライアント#2	クライアント#3	クライアント#4
外見	1				
行動	1				
会話	1				
注意	②				
変化の受け入れ	②				
社会的交わり	1				
小 計	8				
重要点の小計	4				

- スーザンは、時間 - 移動能力の点数を全て で囲んだ。職業分析表から、これらは全て重要と思われたからである。この群での小計は重要点の合計と同じ値となる。以下参照のこと。

仕事に関連する要素	職業分析表の 仕事要素のスコア (A欄)	クライアント分析表のプロフィールの スコア (B欄)			
		クライアント#1	クライアント#2	クライアント#3	クライアント#4
2. 時間 - 移動能力					
仕事のスケジュール	③				
時刻の識別	③				
職場でのオリエンテーション	②				
可動性	②				
小 計	10				
重要点の小計	10				

- スーザンは、職業分析表からの情報を点数として記入し続けた(3 仕事への耐性、4 遂行能力、5 必要な学力、6 他の関連した要因)。このA欄の要因のそれぞれの群において彼女は上記したように2種類の小計を出していった。

- A欄における分析の最初の部分を行なうために、スーザンはそれまでの6群の小計を書き入れ、総計を出すためにそれらを合計した。

- スーザンは6群の重要点の小計を書き入れ、分析の2つ目の欄を満たすためにそれらを合計し、重要点の総計を出した。これでA欄の操作は全て終わった。

B欄の操作 -

- スーザンはフレッドのクライアント分析表(第6表-1)の情報を点数としてB欄のクライアント#1の下に記入していった。外見は(2)であり、行動は(1)、会話は(2)、注意は(3)、変化の受け入れは(2)、社会的交わりは(2)であった。

- 彼女は職業分析表の重要な要素である注意と変化の受入の点数を で囲んだ。以下を参照。

仕事に関連する要素	職業分析表の仕事要素のスコア (A欄)	クライアント分析表のプロフィールのスコア (B欄)			
		クライアント #1	クライアント #2	クライアント #3	クライアント #4
1. 個々に要求されるもの					
外見	1	2			
行動	1	1			
会話	1	2			
注意	②	③			
変化の受け入れ	②	②			
社会的交わり	1	2			
小 計	8	12			
重要点の小計	4	5			

- A欄の場合と同様にスーザンは、個々人が要求されることという群の小計を出した。それを適切な箇所に記入し、次に重要点の小計を出して記入した。

- スーザンは、この操作を全ての6つの群について行なった。他の関連した要因については、職業分析表には載っていないけれども、2つの非常に重要な要因が、加えられているということで多少異なっていることには、注意しなければならない。これらの合計は小計欄に記入される。

- スーザンはA欄と同様の操作で分析を行なった。小計を合計して総計を出し、重要点の小計を合計して重要点の総計を出したのである。このような方法でスーザンは、フレッドの素質と窓ふきの仕事をマッチさせるに必要な点数を、計算し記入していった。

- メアリー・ホワイトのクライアント分析表を使用して、スーザンはメアリーの素質と、考えられている職業に必要とされるものと比較検討するために、同様な操作をしていった。

マッチングの結果

- A欄、B欄ともに点数の分析を終えたところ、総計の結果が次のようであった。

	A欄	B欄	
	職業分析の点数	クライアント# 1 (フレッド)	クライアント# 2 (メアリー)
総計/全ての要因	36	47	41

結果は上記のようなので、総計によるマッチングの順位は、次のようになる。

1. フレッド・ジョーンズ
2. メアリー・ホワイト

スーザンは両方のクライアントとも、6(他の関連する要因)を含む2つの附加的な要因によ

って5点点数が吊り上がっているということを覚えている。これはしかし余り影響がない。というのは、その5点を考えてもクライアントの点数は職業分析の点数と同じか、越えているからである。もちろんスーザンは、就職を決定する前にもっと情報を集めなければならなかった。

- スーザンの次の仕事は、重要点の総計を検証することである。それらは次のようである。

	A 欄	B 欄	
重要点の総計	職業分析の点数	クライアント # 1 (フレッド)	クライアント # 2 (メアリー)
／全ての要因	25	25	25

この結果はスーザンに、「同じ状況」であることと、これから 2 人のクライアントに順位を、つけることは出来ないということを示した。より深いクライアント - 職業マッチングの方法が必要になる。もしこの小計が一方に明白なマッチングを示す結果を出したとしても、就職を決める前に職業 - クライアントマッチング表を復習することが賢明である。

- スーザンは個々人に要求されるものの検証を開始した。ここで彼女はメアリーが外見と会話という、この職業では重要でないところで点数を高めているものの、注意とか変化の受け入れとかの職業上必要なところで余りマッチしていないことに気がついた。フレッドは重要点の双方ともを満たしていた。この群においては、明らかにフレッドのほうが、よくマッチしている。

- スーザンは時間 / 移動の要因に移り、それぞれを検証した。彼女はこの群の全てが仕事に重要であり、フレッドは時刻の識別のみ除いて A 欄のスコアと同点か、もしくは越えているということに留意した。彼女はフレッドが、デジタル時計を使えばこの部分もカバーでき、仕事に支障を来さないと考えた。それに対してメアリーは、可動性では点数が越えるものの、仕事のスケジュールと職場のオリエンテーションでマッチしなかった。この仕事はフルタイムのウィークデーのものなのだが、彼女は夜や週末を含んだパートタイムの仕事を希望していたのである。この仕事の一つの大きなビルを職場とするのに対して、メアリーは小さな職場を希望していた。スーザンはこの群においてフレッドの方が、よりよくマッチするという結論を出した。

- 次にスーザンは 3 番目の群の、仕事への耐性における、この 2 人の候補者の様子を比較検討

した。この仕事では耐久性は重要とされている。スーザンは、この仕事が1日8時間労働であることに對し、メアリーが1日に2時間以上働けないことに留意した。フレッドは休憩なしで1日に4時間以上働いた経験がないものの、スタミナがあるという経歴がある(面接で得た情報から)。耐久性に関してフレッドはメアリーよりも期待ができそうである。強度に関しては、フレッドはただ必要条件に達しただけだが、メアリーはそれを越えているが、これはこの仕事では重要ではない。スーザンはこの仕事への耐性という群でフレッドのほうが、よりよくマッチしていると結論した。

- スーザンは遂行能力に移った。メアリーは2つの重要な分野、仕事の継続と道具の判別という所で必要とされる点数と同点かもしくはそれを越えていた。フレッドは両方とも同点であった。フレッドはこの仕事では重要とされていない仕事の開始と、仕事のスピードでメアリーを凌駕していた。ここでスーザンに専門家的な判断が求められる。彼女はフレッドが、この2つの面で少し優れていることが、仕事に有利であろうと判断した。

- 5番目の必要な学力という群では、メアリーは明らかにフレッドを越えている。しかしフレッドはこの仕事に必要な学力に達しているか、もしくは越えている。スーザンは学力において2人は同点と考えた。

- 最後の6番目の群の他の関連する要因では、スーザンは、メアリーがはげましを必要とすることが、この窓ふきの仕事の継続を難しくするのではないかと考えた。フレッドが社会的強化を、そう必要としないことで、仕事には合いそうである。メアリーの家族は、メアリーが援助付き雇用プログラムに入ることを妨げはしないものの、フレッドの家族の支援のほうにより強いものがあつた。両方のクライアントとも、職場の前の信号のない2車線の通りを横切ることができる。これら全てを考慮して、スーザンはこの群ではフレッドのほうが、よりよくマッチしていると考えた。

- 分析を終了して、スーザンは、メンテナンスシステム社に、窓ふきの仕事としてフレッドを推薦した。クライアント - 職業マッチング表の最後に付いている理由欄(第8表-2)に、今まで検討してきたクライアントの長所や弱点を、彼女の決定の理由として記載した。

まとめ

全てのことがなされてから、クライアントと職業のマッチングを行なうために、客観的な計測は専門的な判断により緩和されなければならない。数字だけが、全てを語るものではないのである。最高得点のクライアントが、その職に合っていないことがある。つまり、仕事が簡単すぎるのである。言い換えると、クライアントはその仕事に“過度に適合”しているのである。総計では高得点であるが、重要点の総計は、他のクライアントに比較して低い、ということもあり得ることである。このような時に専門家的な判断が必要になるのである。どのような場合にもジョブ・コーチは「このクライアントはこの仕事にあっているであろうか、それとも、他の仕事がいいのだろうか？」と自問すべきである。クライアントのプロフィールを全て検討し終えた後に、他の仕事のほうがいいと分かったり、そのクライアントの資質にあった職業を新たに開拓する必要があること、をプロフィールから示唆されることがある。

第7表-1 クライアント-職業マッチング表

企業名 _____ 職業名 _____
 記録者 _____ 日付 _____

クライアント名 1. _____ 3. _____
 2. _____ 4. _____

重要点の点数は○で囲むこと

職業分析表の数字をA欄に書き入れること

クライアント分析表の数字をB欄に書き入れること

仕事に関連する要素	職業分析表の仕事要素のスコア (A欄)	クライアント分析表のクライアントのプロフィールのスコア (B欄)			
		クライアント#1	クライアント#2	クライアント#3	クライアント#4
1. 個々人に要求されるもの 外見 行動 会話 注意 変化の受け入れ 社会的交わり					
小計					
重要点の小計					
2. 時間-移動の要因 仕事のスケジュール 時刻の識別 職場でのオリエンテーション 可動性					
小計					
重要点の小計					
3. 仕事への耐性 耐性 強さ					
小計					
重要点の小計					
4. 遂行能力 仕事の開始 職務の持続 判別 仕事の速度					
小計					
重要点の小計					
5. 基礎的な学力 読み 計算 お金の計算 書く能力					
小計					
重要点の小計					
6. 他の関連する要因 「強化」 家族の支援 道路の横断					
小計					
重要点の小計					
7. 分析 小計の合計 個々人に要求されるもの 時間-移動の要因 仕事への耐性 遂行能力 基礎学力/技能 他の関連する要因					
総計/全ての要因					
個々人に要求されるもの 時間-移動の要因 仕事への耐性 遂行能力 基礎学力/技能 他の関連する要因					
重要点の総計/全ての要因					

第7表-2

マッチングの結果

1 から 4 の順に高い点に従ってクライアントの名前を書く。

総計によるマッチング

重要点の総計によるマッチング

1	_____	_____
2	_____	_____
3	_____	_____
4	_____	_____

就労への推薦

クライアントの名前 _____

推薦の理由

第8表-1 クライアント-職業マッチング表

企業名 メンテナンス・システム 職業名 窓ふき
 記録者 スーザン・トンプソン 日付 5-29-87

クライアント名 1. フレッド・ジョーンズ 3. _____
 2. メリー・ホワイト 4. _____

重要点の点数は○で囲むこと

職業分析表の数字をA欄に書き入れること

クライアント分析表の数字をB欄に書き入れること

仕事に関連する要素	職業分析表の 仕事要素のスコア (A欄)	クライアント分析表のクライアントの プロフィールのスコア (B欄)			
		クライアント#1	クライアント#2	クライアント#3	クライアント#4
1. 個々人に要求されるもの 外見 行動 会話 注意 変化の受け入れ 社会的交わり	1 1 1 ② ② 1	2 1 2 ③ ② 2	3 0 3 ① ① 0		
小計	8	12	7		
重要点の小計	4	5	1		
2. 時間-移動の要因 仕事のスケジュール 時刻の識別 職場でのオリエンテーション 可動性	③ ③ ② ②	③ ② ② ③	② ③ ① ③		
小計	10	10	8		
重要点の小計	10	10	8		
3. 仕事への耐性 耐性 強さ	③ 2	② 2	① 3		
小計	5	4	0		
重要点の小計	3	2	3		
4. 遂行能力 仕事の開始 職務の持続 判断 仕事の速度	2 ② ② 1	2 ② ② 1	1 ③ ② 0		
小計	7	7	6		
重要点の小計	4	4	5		
5. 基礎的な学力 読み 計算 お金の計算 書く能力	1 ① ③ 0	1 ① ③ 3	3 ③ ⑤ 4		
小計	5	8	15		
重要点の小計	4	4	8		
6. 他の関連する要因 「強化」 家族の支援 道路の横断	1	1 3 2	0 2 3		
小計	1	6	5		
重要点の小計	0	0	0		
7. 分析 小計の合計 個々人に要求されるもの 時間-移動の要因 仕事への耐性 遂行能力 基礎学力/技能 他の関連する要因	8 10 5 7 5 1	12 10 4 7 8 6	7 8 0 6 15 5		
総計/全ての要因	36	47	41		
個々人に要求されるもの 時間-移動の要因 仕事への耐性 遂行能力 基礎学力/技能 他の関連する要因	4 10 3 4 4 0	5 10 2 4 4 0	1 8 3 5 8 0		
重要点の総計/全ての要因	25	25	25		

